

直売所向け花きの栽培技術

ヒメヒマワリの栽培



ヒメヒマワリはキク科の宿根草で、原産地はメキシコです。花の色は黄色で、一重咲きと八重咲きがあります。花もちが良く、仏花やアレンジなど様々な用途があり、直売所では人気のある切花です。

露地で栽培でき、一度定植すると、3~4年は植え替えする必要がなく、手間のかからない省力品目です。八重咲の「旭」は栽培しやすい人気品種です。

1 植え付け

日当たりが良く、排水の良いほ場に植え付けます。排水が悪いと株が枯れることがあります。

10月または3月頃に苗を植え付けます。たい肥 2kg/m²と少量の苦土石灰を土に混ぜ、基肥は有機肥料(6-6-6)を1m²当たり150g施用します。床幅70cm、通路50cmに耕し、株間25cm、2

条植えとします(1条植えても良い)。苗は深く植えると生育が良くないので、浅植えとします。

2 栽培管理

4月頃気温が高くなると芽が伸びてきます。草丈が20cm程度になった頃、目の大きさ15cm程度のフラワーネットを1段張り、茎が曲がらないようにします。1年目は新芽の数が少ないので芽の整理はしませんが、2年目以降は切花のボリュームアップのため、1株当たり4~5本に整理します。

草丈が30cmになった頃、一度追肥をしますが、量は少量とします。土寄せを行うと、株元が過湿になり、株枯れの原因となります。丈夫な植物なので、病虫害はあまり発生しません。切花時には草丈が1m程度になります。

3 切花・切花後の管理

花が数輪満開になった後、切花をします。6月から花が咲きますが、花を除去すると、次々と開花するため、8月頃まで、長期間切花を行うことができます。切花後、地上部を刈り込むと、次年の春には、地際部から新しい芽が伸び、植え替えなしで切花ができます。

(JAグループ和歌山農業振興センター)